

■ 第22回非開削技術研究発表会の開催

11月29日（火）、東京都港区内虎ノ門の「発明会館ホール」において、第22回非開削技術研究発表会を開催しました。発表会の開会は午前9時、途中昼食・休憩を挟んで閉会は午後5時となりました。

発表論文は全部で22件であり、これを技術ジャンル毎に下記の5セッションに分けて発表頂きました。各セッションのテーマおよび発表論文数は下記のとおりです。

【第1セッション】

非開削 管路内・外からの探査・調査技術 5編

【第2セッション】

非開削 管更生技術 6編

【第3セッション】

非開削 小口径管推進技術 3編

【第4セッション】

非開削 管推進技術 研究・開発 3編

【第5セッション】

非開削 大中口径管推進技術 5編

今回発表会の論文は、7月26日（火）のアブストラクトから募集を始め（会員へのメール送信とホームページ掲載）て、9月21日（水）開催の第73回技術委員会にて採用決定頂いたものであります。今回の応募論文の特徴は、探査・調査技術や管更生技術をテーマとしたものが約半数を占めていることでありまして、非開削技術へのニーズの変化が伺えるようでありました。

今研究発表会への参加者は例年とほぼ同じ180名に上りました。また、研究発表会後は会場を移して、発表者・セッションの座長・参加者有志約50名の参加による懇親会を開催し、相互親睦と情報交換の場として活用頂きました。

なお、研究発表会の会場入り口には技術PRコーナーを設置し、特徴ある非開削技術の広報に役立てて頂きました。

この非開削研究発表会は当協会（JSTT）の重要な活動項目の一つであり、今後も毎年の開催を計画しております。論文（アブストラクト）募集は7月下旬～8月上旬、研究発表会開催は11月下

旬としております。多くの投稿・発表をお待ちしております。



発表会の様子

■ 環境に優しい推進（HDD）工法の技術講習会（仙台）の開催

11月17日（木）、宮城県仙台市内の「仙台ガーデンパレス」（JR仙台駅前）において、震災後の東北地方では初めてのHDD工法技術講習会を開催しました。仙台市での開催は、東日本大震災で被災した内圧管（水道、ガス用途等）を始めとする各種の地下ライフライン管路設備の復旧、復興のお役に立てる事を目的としたもので、当日は26名のご参加を頂きました。

講習会では、先ず当協会HDD（誘導式水平ドリル）工法委員会の草薙委員長より、開会の挨拶として、東日本大震災へのお見舞の言葉とHDD工法の簡易で、環境に優しいというメリットの紹介をさせて頂きました。続いてHDD工法委員会の各委員による技術内容の説明に入り、①HDD工法の施工手順及び方向修正機能、②HDD工法の特徴が生かされた有効な施工事例の紹介（7件）、③2011年度版 設計積算要領、機械器具損料算定資料、施工管理の手引き（案）、④HDD工法用管材、の順序で工法の概要・メリット等を紹介させて頂きました。また、最後に意見交換の場として質疑応答の時間を設定致しました。この講習会が有効に生かされることが願われます。

■ JSTTの委員会活動

(1) 機関誌 (No-Dig Today) 編集委員会、 編集企画小委員会

【編集委員会】

10月4日(火)に第79回委員会を開催しました。この委員会では、機関誌第77号(10月1日発行済み)を基に、今後の機関誌の充実に向けての特集記事、技術記事の相応しいテーマ等について論議されました。

【編集企画小委員会】

10月4日(火)に第89回編集企画小委員会を開催しました。この委員会では、第78号(本号)の表紙デザイン、特集技術記事の執筆依頼先(候補)、現場・展示会等取材先(候補)の選定等とともに、非開削工法に対する世の中の理解を深めて頂くためのツールとしての機関誌の位置付けなどが論議されました。

(2) 工法ナビゲーションシステム運営委員会

11月9日(水)に第38回委員会を開催しました。この委員会ではまず、2011年度版として発行されたHDD工法の設計積算要領が新たに取り上げた曲線施工機能を検索対象に組み入れる事及びHDD工法の検索の利便性向上に向けた改良が論議されました。

また、現在は検索工法区分(技術ジャンル)に取り上げていない「地下探査技術(工法)」と「内圧管路更生工法」については、工法への需要やその重要性を顧慮して、各々の技術の委員会ないしはそれらの技術を扱う専門家の意見を取り入れつつ単独の技術区分(技術ジャンル)として掲載する方針が確認されました。

(3) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会

11月17日(木)に第48回委員会を開催しました。この委員会ではまず、本年度の新たな取り組みとして大宮市と仙台市の2箇所で開催しました「HDD工法技術講習会」の課題や今後の進め方について論議しました。

また、2011年度発行のHDD工法用設計積算要領において、新たに適用可能領域に設定しました曲線施工機能に対する工法ナビゲーションシステ

ム上の検索項目・検索手順の整理や全体的なナビゲーション利用者の利便性向上に向けた検索内容の見直しなどを論議しました。

平成19年度制作のHDD工法施工事例集は、平成24年度に改訂版を発行することとしました。

(4) 地下探査技術委員会

11月10日(木)に第7回委員会を開催しました。委員会ではこれまでに、都市土木用途の地下探査技術(地下埋設物・空洞等を探査)の利用マニュアルの制定に向けて、探査目的や要求される成果、目的別の利用可能な要素技術等の調査を進めております。今回の委員会では、マニュアルに用いる用語、対象とする要素技術、探査目的に応じた探査手順・探査内容や探査結果の報告内容等について論議しました。

また、既に一般的に利用されている汎用技術について、工法ナビゲーションシステムに掲載する方向で検討することが確認されました。

(5) ソーシャルコスト検討委員会

10月3日(月)に第8回委員会を、11月14日(月)に第9回委員会を開催しました。委員会ではこれまでに、都市内管路工事を対象に開削工法と非開削工法の両工法での直接工事費用と外部費用(いわゆる社会的費用=ソーシャルコスト)の現状を調査してきました。今回の委員会では、更に都市内管路工事において想定される幾つかの施工条件に対して、開削工法と非開削工法での直接工事費用を試算するとともに、各工法での外部費用(社会的費用=ソーシャルコスト)の要因とその影響について論議しました。

また今後はこれらを総括し、開削工法と非開削工法の費用(直接+外部)に影響する具体的な要因を取り込んだ試算を行い、外部費用(社会的費用=ソーシャルコスト)の評価を進めることとしました。

本委員会では、外部費用(社会的費用=ソーシャルコスト)の影響を評価出来るマニュアルを作成し、都市内管路工事における工法選定の一助とすることを目指しています。